

成果指標				
成果指標	サービス利用に関する相談件数(支給件数も含む。)			
指標設定の考え方	相談の結果、支給に至らないケースや支給要件に該当しないケースもありえるので、支給件数ではなく、制度の周知という面も考慮して相談件数の純増を指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	50	50	50	50
実績	31	34	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	サービス利用が増えているため、より効率的に計画案やモニタリングで評価できるようにしなければならない。障害を気にせずに移動できるような社会にするために、このサービスを利用していくためには、相談員の力が大きいので、今後とも相談員の協力を得て、事業の一層の推進を図る必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	障害者の社会参加や余暇活動の充実を図るため、計画相談員が本人や家族の意向を尊重し、外出の機会を確保するためプラン化を実施している。家族と離れてヘルパーと一緒に単独で外出することに障害者が徐々に慣れてきており、サービスの利用回数も増えることが予想される。今後必要とされるのは、障害者が自主的に社会参加できる環境や一般市民の合理的配慮の推進であると考えている。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題